

## ウドの高品質・安定生産に向けた弱休眠性品種の育成研究

### 【研究概要】

東京特産野菜の軟化ウドは休眠性が深いため、高単価の見込める促成栽培の年内収穫で品質・収量が不安定となっている。園芸技術科ではこれまでに弱休眠性品種の育種研究に取り組み、有望系統の作出に成功した。さらに、新品種の効果的な普及には、重労働の根株養成・株割り作業が不要となる培養苗の生産体系の確立と、新品種保護のための品種識別マーカーの開発が併せて必要である。そこで本課題では、第一に弱休眠性の新品種の育成。第二に培養苗を用いた生産体系の確立。第三に品種識別等を可能にする DNA マーカーを開発することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の3つの成果が得られた。

- (1) 新品種の育成：選抜の基礎資料とするため、TU-2～7 について促成栽培で特性調査を行った。また有望系統の栽培特性を把握するため、ジベレリンの濃度を変えて処理し、軟化茎の傷みとの関係性を評価した。
- (2) 培養苗の生産体系の確立：TU-2、4 について培養苗由来の株分け苗（3 年目）の栽培評価を試験行い、根株と軟化茎の収量、品質を慣行区と比較し、評価した。
- (3) DNA マーカーの開発：マーカー候補を絞り込むため、作成した SNP プライマーを用いて PCR 実験を行った。